

越後国域確定1300年

新潟県のかたちを求めて



越後国域確定1300年

新潟県埋蔵文化財センターのエントランスにて、越後国域確定1300年記念事業「遺跡が語る古代のいがた」と題して、平成25年3月31日まで企画展を開催しています。展示では古墳時代から平安時代にかけての遺跡・遺物を通して、越後国域が確定した頃の社会の変化を概観します。以下に、一部展示遺跡を紹介します。

■黒田古墳群 調査原因：上信越自動車道建設（平成8・9年度）

所在地：上越市大字黒田字田ノ入

南葉山麓の丘陵上に立地し、円墳23基で構成される古墳時代中期（5世紀後半）の古墳群です。2号墳主体部から鉄製の刀・剣・斧・鏝などのほか、白玉・豎櫛などが出土しました。墳丘をもたない木棺墓からは、県内初例となる蛇行剣をはじめ、鐮子状鉄製品・環状鉄製品が出土したほか、墓壙近くで須恵器杯が出土しました。

古墳の形状や副葬品は、被葬者の政治的な立場を示すと考えられています。円墳は当時北陸北東部でも造られていました。副葬品の鉄製農耕具は信濃、須恵器・蛇行剣・鐮子状鉄製品は政治の中心地であった畿内とのつながりを示します。これらのことから、後の北陸道や東山道（信濃）を媒介とする畿内勢力とのつながりが見えてきます。



黒田古墳群

■余川中道遺跡 調査原因：国道17号六日町バイパス建設（平成15年度）

所在地：南魚沼市大字余川字中道

六日町盆地の北部、魚野川左岸の庄之又川が形成した扇状地に立地します。標高は約175mです。

古墳時代中期～後期初頭（5世紀～6世紀初頭）の竪穴住居・水田のほか、川辺の祭祀の様子が明らかになりました。水田は今日の「棚田」と同じ構造です。洪水で一気に埋没したため、当時の姿がよく保たれていました。川や水路の脇で見つかった意図的に並べ置かれた土器や石製模造品は、「水」に対して特別な祈りを捧げた祭祀関連のものではないかと考えています。遺跡の西方約1km圏内には、遺跡とほぼ同時期の蟻子山古墳群・飯綱山古墳群があります。古墳を造った人々の水田・集落・古墳をセットで確認できる、県内でも数少ない調査例です。



余川中道遺跡 水田（まだら模様は当時の足跡）

■荒町南新田遺跡 調査原因：北陸新幹線建設（平成20年度）

所在地：上越市大字荒町字南新田

高田平野の西縁部、青田川の自然堤防上に立地します。標高は約18mです。北側に北新田遺跡が隣接し、弥生時代後期から室町時代にかけての集落の変遷が分かります。



荒町南新田遺跡
竪穴建物のカマド周辺遺物出土状況